

群馬建協の
取り組み

4つのキーワードを“突破口”に

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は、建設産業の再生に向け、「やりがい、報い、見通し」の3本の矢の理念のもと、「若者・女性・IT・環境」の4つをキーワードに打ち出し、人材確



環境すみずみパトロール隊の取り組み

保の“突破口”になる事業を推進している。

ことし10月には、会員企業の女性職員が“女子目線”で現場の環境改善を図る「環境すみずみ

みパトロール隊」を全支部で発足させた。女性の力を借りて建設業のイメージアップを図り、若手の入職促進につなげたい考えだ。

課題解決を図るために、アンケートを踏まえた提言活動にも力を入れている。2012年度に実施した「土木施工管理技士に関するアンケート」調査では、「群馬県内の1級、2級土木施工管理技士の過半数は50歳以上が占める」との状況を把握し、安定的な雇用を確保するための中長期的建設投資計画の明示や実行、資格試験における実務期間の短縮など対策の必要性を指摘した。

ことし7月には「設計労務単価の引き上げ等に関する調査」を実施し、毎年若年者（24歳以下）を採用している企業は6%、定期採用は26%との実態を把

握。この結果を踏まえ、企業経営の安定と建設需要の確かな見通し、人材不足の時代を見越した諸制度の構築すべきであるとの提言を取りまとめ、群馬県や国土交通省に提出した。

建築、土木系の学生支援も精力的に実施。インターンシップ事業として、2012年度に工業高校生と大学生の合計216人が参加し、86社が受け入れた。静岡県の富士教育訓練センターにおける実地体験には32人の工業高校生が参加している。県内建設系高校の進路状況調査や意見交換会などで入職を支援している。

群馬県県土整備部主催による、産業界、県、工業高校、大学などで技術者不足に対応する「産学官連携会議」にも積極的に参加するなど、幅広い人材確保・育成対策を講じている。